

## おくすり Q&A

### 多汗症の外用治療薬について

Q. 多汗症とはどのような病気ですか？

A. 多汗症は、**発汗量が増加する病気**です。全身の発汗が増加する「**全身性多汗症**」と、特定の部位に限局して発汗量が増加する「**局所性多汗症**」の2つのタイプがあります。今回は、**局所性多汗症に使用する外用治療薬**について説明します。

Q. 外用治療とはどのようなものですか？

A. 現在行われている主な多汗症治療は、症状を軽減したり消失させたりする「**対処療法**」で、手術療法・内服療法・外用療法があります。その中でも外用治療は、他の手術療法や内服療法と比べて、**患者さんへの負担や全身的な副作用の発生リスクが少ないというメリット**があります。しかし、外用治療の効果は個人差があり、継続的な使用が必要なこともあります。

Q. 局所性多汗症の外用治療薬にはどのようなものがありますか？

A. 現在、保険適用のある外用治療薬として、**脇汗専用の薬と手汗専用の薬**が販売されています。

Q. 脇汗専用の薬について教えてください。

A. 脇汗専用の薬は**2種類**販売されています。



	エクロックゲル 5%	ラビフォートワイブ 2.5%
剤形	ゲル状	シート状（不織布）
使用可能年齢	12歳以上	9歳以上
用法・用量	1日1回、両脇に塗布	1日1回、封入されている不織布1枚を用いて両脇に塗布
特徴	日本初の保険適用の脇汗治療薬であり、薬液に触れずに塗布が可能です。	1回使い切りのため、簡便かつ衛生的に使用することができます。
注意点	手に付いた場合はすぐに洗い流し、目に入らないように注意してください。また、緑内障や前立腺肥大症による排尿障害の方は使用できません。	不織布でゴシゴシ擦らないようにしてください。使用後は手を洗い、目に入らないように注意してください。また、緑内障や前立腺肥大症による排尿障害の方は使用できません。

Q. 手汗専用の薬について教えてください。

A. 手汗専用の薬は**1種類**販売されています。

	アポハイドローション 20%
剤形	ローション
使用可能年齢	12歳以上
用法・用量	1日1回、就寝前に両手のひら全体に塗布
特徴	新しく発売された薬であり、手汗の治療が保険適用でできるようになりました。
注意点	起床時には手を流水で洗い流し、目に入らないように注意してください。重篤な心疾患・腸閉塞・麻痺性イレウス・重症筋無力症・緑内障や前立腺肥大症の方は使用できません。

外用治療薬は、**局所性多汗症の症状を軽減する有効な方法であり副作用の心配が少なく、簡単に取り入れることができる点が魅力**です。局所性多汗症の治療をお考えの場合は、治療の効果や副作用、他の治療法との比較について医師に相談してみることをおすすめします。

執筆薬剤師 太田 雅俊

# わたしの健康とくすり

第332号



撮影／加藤 哲教

## 今月の内容

- 疾患シリーズ **糖尿病と高血圧《連載・第7回目》**
- ちょっとお耳を…… **足を清潔に保とう**
- おくすり Q & A **多汗症の外用治療薬について**

2023年9月発行

発行者 **八王子薬剤センター 橘 隆二**  
東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 **八王子薬剤師会**

## 糖尿病と高血圧

前回は「糖尿病と心臓病」でしたが、今回は、「糖尿病と高血圧」に関する話題です。糖尿病と高血圧は、我々の生活において非常に身近な存在となっています。どちらも**生活習慣**が大きく関係している疾患であり、予防や管理が不十分であれば、さまざまな合併症を引き起こす可能性があります。今回、糖尿病と高血圧の関係、予防や治療の重要性について考察します。

糖尿病は、血糖値が適切に制御されずに高い状態が続くことを指します。高血糖が続くと、血管にダメージを与えるため、さまざまな合併症のリスクが高まります。その一方で、高血圧は、血液が血管の壁にかかる圧力が通常よりも高い状態を意味します。これもまた、血管に過度なストレスをかけるため、心臓や腎臓などの臓器に悪影響を及ぼします。

糖尿病と高血圧は、しばしば同時に生じる病気です。糖尿病患者さんの中で高血圧を持つ人は少なくありません。糖尿病患者さんは高血圧になりやすく、糖尿病と診断された時には、血圧が高くなくても年々上がっていくことも少なくありません。高血圧患者さんも糖尿病を発症することがあります。いずれも生活習慣が原因であることが多く、**過度の食事、運動不足、ストレス**などが共通の原因として挙げられます。

糖尿病と高血圧が合併すると、**眼や心臓、腎臓の合併症のリスク**が格段に上昇します。例えば、腎臓では、糖尿病だけでなく、高血圧によっても**腎機能低下や腎不全のリスク**が高まることが知られています。心臓も糖尿病と高血圧のいずれか一方より、合併すると**心不全や狭心症や心筋梗塞**を生じやすくなります。他には、**脂質異常症**や**喫煙**などがリスクを高めると考えています。

重要なのは、早期の発見と適切な管理です。定期的な健康診断を受け、**血圧や血糖値の管理**が必要です。さらに、日常生活の中で**食事の質や運動の量を意識**することが大切です。

食事は、**塩分や糖分の摂りすぎ**に注意し、**バランスの良い食事**を心掛けることが推奨されます。運動は、毎日の**ウォーキング**や**軽い筋トレ**など、無理のない範囲で継続的に行うことが大切です。**禁煙**も非常に重要です。

生活習慣の改善を行っても管理が不十分であれば、薬剤を用いて、適切な管理を行うことがリスクを減らし、身体を守ります。

糖尿病と高血圧は、それぞれ単体でも十分に注意が必要な疾患ですが、合併することでさらなるリスクが生じます。定期的な健康診断、適切な食事と運動の取り組みを通じて、これらの疾患のリスクを低減する努力が必要です。家族にも協力していただき、予防と管理の取り組みを行いましょう。

次回は、糖尿病と脳卒中についてのお話をいたします。



東京医科大学八王子医療センター糖尿病・内分泌・代謝内科 松下 隆哉

## ちょっとお耳を……

## 足を清潔に保とう

皆さん足をきちんと洗えていますか？清潔に保っていますか？足は体の中でも発汗や靴を履くことによる蒸れなどにより清潔を保持しにくい部位です。また、加齢や慢性疾患に伴ってさまざまなトラブルが生じ、痛みや変形、皮膚病変による歩行困難に発展することもあります。足を清潔に保つこと、注目することで血流や感覚障害や傷などの徴候を早期発見して予防・治療を行うことはとても大切なことです。



### 《足の洗い方のポイント》

#### ★ 38～40℃のぬるま湯を使用

熱すぎるお湯は皮脂の落としすぎに繋がり乾燥を悪化させてしまいます。神経障害がある方は熱さに鈍く熱湯でも気づかず火傷の危険も。

#### ★ 隅々までよく洗う

指の間もしっかり開いて洗いましょう。おすすめは手と足で握手をするように！爪周りも忘れずに。柔らかい歯ブラシなどを使用するのも良いです。

#### ★ よく泡立てた泡で、 柔らかいたオルやスポンジを使用

汚れは泡が浮かせて取り去ります。石鹸を直接こすりつけてはいけません。また、軽石などで強く擦ってしまうと皮膚を傷つけ、傷からの感染の原因になります。

#### ★ 洗ったらよく拭いて、保湿をする

清潔なタオルで指の間までしっかりと水気を拭き、クリームなどで保湿をしましょう。乾燥した皮膚はバリア機能が低下してしまいます。また、ひび割れなどから感染が起きてしまうこともあります。

△お風呂場や脱衣所では、風呂用イスなどを利用するなどして滑って転倒しないよう注意してください。

今回は足のケアの中でも洗い方に重点を置いて紹介させていただきました。習慣をすぐに変えることは容易ではありませんが、まずは常日頃から自分の足に注目をすることから始めてみてください。自分で見たり触れたり難しい場合は鏡を使用したり、可能ならご家族や介護者の方に協力してもらいましょう。毎日のチェックで異常に気が付いたら放置せず医師に相談するなどの早期対応を心がけましょう。



執筆薬剤師 中村 桃子